

## [講演要旨] 山奈宗真『岩手県沿岸大海嘯取調書』に記される 近代以前の歴史津波痕跡について

蝦名裕一\*(東北大学災害科学国際研究所)・今井健太郎(同前)・首藤伸夫(東北大学名誉教授)

### §1. はじめに

『岩手県沿岸大海嘯取調書』は、山奈宗真が1896年明治三陸地震津波の後に、津波被災地の実情を記した史料である。同史料には、明治三陸津波の被害状況とともに、各地域に残る歴史津波の記録や伝承について記録している。

本報告では、同史料における近代以前の歴史津波の記述をもとに、特に明治三陸津波以上の規模と記されている歴史津波の記述を中心として、各地域の歴史情報や現地調査によって痕跡地点を判定し、同地の測量によって得られたデータに基づきながら、これらの歴史津波痕跡について検証していく。

### §2. 『岩手県沿岸大海嘯取調書』における歴史津波の情報

表1に、今回の調査において、史料に記載されている近代以前の歴史津波に関する記述と、今回調査を実施したおもな痕跡地点を記した。

I. 旧小本村(現岩泉町)には、昔の津波によって打ち上げられた芋桶が杉の巨木に掛かり、それ以後住民達が津波の教訓として芋桶が朽ちる度に新しい芋桶を杉に掛けていた、という伝承が記されている。本調査では、かつて小本地域のシンボルであり、昭和期に焼失した杉の巨木跡を確認し、伝承地を確認

することができた。

II. 旧崎山村女遊戸(現宮古市)では、現在は消滅した地名である「日陰ノ沢」の地点、「松ノ木沢」(現松月)の地点について、聞き取り調査により伝承地を確認することができた。

III. 旧磯鶏村(現宮古市)では、1611年の津波が北村福太郎家の石垣まで到達したことが記されている。本調査では、北村福太郎家を特定し、子孫から聞き取り調査によって伝承の存在を確認することができた。

IV. 旧舟越村(現山田町)では、昔の津波が塩釜神社の西側の堀合に到達したこと、また大浦から小谷鳥にかけての峠を越えたという伝承について記されており、本調査においてこれらの伝承地を確認した。

V. 大槌町では、1611年の津波が大槌川を遡上し、「金沢下」まで到達したことが記されている。これは当時の大槌町に隣接していた金沢村のことであると推定されるが、到達点を特定するには至らなかった。

### §3. おわりに

今回の調査では、IIIで1611年津波の到達点を特定、I, II, IVでは伝承地を確認することができた。Vの地点については、標高が高すぎることもあり、改めて再検証する必要がある。

	痕跡地点名	時期	記述内容	調査内容
I	北閉伊郡小本村	昔	津波により芋桶が打ち上がった杉の巨木が存在	伝承地判明 聞き取り調査
II	東閉伊郡崎山村 字女遊戸	昔	①日陰ノ沢・平山ノ沢に海石,明治津波の10倍の地点	伝承地判明 聞き取り調査
			②「松ノ木沢」では海岸より10町程津波が打ち上がった	伝承地判明
III	東閉伊郡磯鶏村	1611	北村福太郎家の石垣まで津波が到達	到達点特定 聞き取り調査
IV	東閉伊郡舟越村	昔	①塩釜神社西側の堀合を津波が越える	伝承地判明
			②津波が大浦より小谷鳥に越え「水界」という地名に	伝承地判明
V	南閉伊郡大槌町	1611	大槌川を遡上した津波の波先が「金沢下」に到達	伝承地推定

表 『岩手県沿岸大海嘯取調書』に記されるおもな近代以前の津波痕跡